

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おゝさと

第54号

(題字は支部長)
令和5年2月1日
発行者
内田眞弘

新春、立春に思う

副支部長 神谷 為義



新春から
早一ヶ月が
たち、立春
を迎えます。
新春や立春

ということばにはなんとなく温か
みを感じられますが、この時季は
なんとしても寒さが身にしみませ
う。会員の皆様には元気で暮らしの
ことと拝察いたしますが、どうか
寒さに負けないようにいつそうの
ご自愛をお願いいたします。

さて、最近の学校には、大きな
改革の波が押し寄せています。特
にグローバル化や情報化を背景に
英語教育やICT教育が重視されて
います。デジタル教科書、ICT
教育、小学校の教科担任制、教員
免許更新制廃止と新たな研修制度
部活動の地域移行、定年引上げ
等々。内容も指導法も制度もめま
ぐるしく変化しています。特に指

導法では、「主体的で対話的な深
い学びの視点からの授業改善」が
要請されています。PISA調査
では、読解力低下も報告されてい
ます。いじめや不登校の問題も依
然深刻です。このように並べたて
ると、退職した私たちもなんと
なく落ちついた気分ではいられな
くなります。なにかそこから遠ざか
りたい気がしてまいります。

しかし、退職校長会規約の第三
条には「現職教育との連絡を密に
する」ことや「教育の充実進展を
はかる」ことがうたわれています。
ですから遠ざかりたい気がして
く、けれども、やはり今日の教育課
題に目を背けているわけにはま
りません。

改革は多くの困難をともなうで
しょう。確かに小学校の英語教育
やICT教育はなじみがありませ
んし、AIを活用した指導やC
BT (Computer Based Testing)
化などは想像もつきません。
しかし「主体的」や「対話的」
な授業なら、私たちも真剣に取り

組んだ経験があるのではないで
しょうか。そして退職校長会全体
を見渡せば新知識に富み、柔軟な
発想をお持ちの先生方が大勢い
らっしゃいます。しかも改革には
豊かな経験に裏打ちされた実践知
も必要です。ですから私たちは今
こそ教育の充実発展のために現職
の先生方との連絡を密にしなけれ
ばなりません。そしてそのために
は一人一人が健康に留意し、退職
校長会の活動を高めていくことが
大切に思われます。
会員の皆様のご健勝とご活躍を
お祈りいたします。

「彩の国教育の日」協賛

第四十三回大里地方教育推進協議会

令和四年十一月八日「彩の国教
育の日」協賛第四十三回大里地方
教育推進協議会が熊谷市立江南総
合文化会館「ピピア」で、三年ぶ
りに開催されました。参加者は現
職校長六十二名、退職校長三十五
名でした。来賓として熊谷市長小
林哲也様、熊谷市教育委員会教育
長野原晃様（代理） 学校教育課長
爪川由美子様、県退職校長会副会
長新井俊一様、指導者に県教育局
北部教育事務所長吉田勇様をお迎
えし、盛会裏に進行しました。開

▲角田光男先生発表の様子



▲男衾小・笠原康男先生

会式では内田眞弘支部長から「学
校は地域との連携を深め、郷土に
思いを寄せる子供たちを育成して
ほしい。地域の退職校長の活用
を！」との挨拶がありました。小
林市長様からは「退職校長会と現
職校長合同の教育推進協議会は極
めて意義深い会であること」のご
祝辞をいただき、野原教育長様か
らは「健康が全てではないが、健
康でなければ円滑な教育は推進で
きないこと」「不登校児童生徒を
無くすには徹底的にかまってやる
こと」等のメッセージをいただいた。
新井副会長様は県退職校長会
の活動内容や本協議会の成果等に
ついて、短歌を添えて説明されま
した。研究協議提案Iでは、寄居

町立男衾小学校笠原康男校長が「真の学ぶ力を身につけ、たくましく生きる児童の育成」を研究主題に掲げ、「道徳」を核として全教科に位置付けて取り組んだ研究が発表されました。特に男衾中の小中連携をもとに地域の特色を生かした研究であること、児童と保護者の行動目標を設定・掲示した「道徳だより」の発行等の実践について話されました。提案Ⅱでは、退職校長会熊谷班角田光男先生から退職後に経験した地域の団体や人々と出会った様々な学びについての発表がありました。「熊谷市郷土文化会、熊谷学での漱石の文学研究」、「熊谷賢治の会」等での興味深い話でした。北部教育事務所長吉田勇様から提案Ⅰについて、道徳の授業研究が学校全体の教育活動に効果的に働いていること、保護者の生の声を生かした「道徳だより」の発行などが効果的であり、提案Ⅱでは、角田先生の「来た依頼は断らない」「どんな会議にも必ず出席する」という生き方に感動したことなどの指導講評をいただきました。

(文責 大岡 由男)

大里地方教育推進協議会 感想

吉岡 正己

今日十一月八日は奇しくも四百四十年ぶりに皆既月食並びに惑星(天王星)食の見られる日です。天体の時間の流れに沿っているわけではありませんが、今日のこの会はほぼ一一〇〇日ぶりに現職と退職者との「教育推進協議会」です。

さて、私は笠原康男先生の「真の学ぶ力を身につけ、たくましく生きる児童の育成」の発表をお聞きして、校長のリーダーの在り方を示していたように感じました。中でも小中連携において小中の先生方が仲良く教育活動に取り組んでいるということ。これはひとえ

に校長の姿勢の賜物だと感じたのです。校長同士が手を組み学校職員がそれに触発されて仲良くなる、これが連携を生み出す源だと思いついて聞かせていただきました。

退職の校長さんの代表では角田光男先生の「退職後、学ぶことのみ多かりき」の発表があり、退職後のお仕事の中で著名人の方とのかかわりが話されました。角田先生は退職にあたり声をかけられたら断ることなく関わろうと心の中で決められたそうです。この何事にも前向きな姿勢が先生の豊かさを醸し出し、幅広い人とのつながりを紡ぎだしているのだと教えられた気がしました。

発表いただいたお二人の先生に感謝申し上げます。

しかし、小規模校のよさを生かし、一人一人を把握したきめ細やかな教育を推進しながら、子供たちの成長を見ることができました。

また、おらが学校として愛されてきた本校は、歴代の校長先生方が築いてくださった「地域の伝統獅子舞踊り」や「ジャガイモ掘り」、「まこも馬づくり」、「地区運動会」等の礎を継承し、地域の方々の献身的な支援とともに歩んできました。中でも、行田市立星宮小学校と星宮地区をあげて作成した「星宮かるた」は、年一回の交流会につながら、地域の方が当時を懐かしむ機会になりました。

保護者や地域の方々との会話から、母校がなくなる寂しさを感じるとともに、「子供たちのよりよい学びのために」という新たな歴史への思いをくむことができました。新設開設に向けて、校名や校歌、体操着、スクールバス等について、教育委員会と話し合いを重ねてきました。新校でも子供たちは、活躍してくれるものと確信しています。

熊谷市最初の統廃合校となり、残りの日々は少なくなってきましたが、伝統を受け継ぎ「子供たちの明るい未来に向かって」を胸に刻み、残りの日々を充実したものにしていきたいと思えます。

随 想

閉校・誇りと

輝かしい歴史を胸に

熊谷東 秋元 敏行

熊谷市立星宮小学校は、令和五年三月三十一日をもって六十八年の歴史に幕を下ろします。

本校の前身は、明治五年の梅岩

院に創設された池上学校、星宮村立星宮尋常小学校、星宮尋常高等小学校、星宮国民学校と時代とともに校名を変え、昭和三十年の分村を経て熊谷市に編入し今日に至り、卒業生一千四百八十一名を送り出してきました。ここ数年は、児童数五十名余りとなりました。



狭庭も楽し

熊谷中央 角田 光男

狭い庭に夏野菜を少しばかり植える。茄子、ミニトマト、ツル性隠元、胡瓜、小玉西瓜だ。素人でも育て易い種類だ。

「土作り」は冬から春にかけて行う。陽や風にあてるため土を上入れ換える。幼虫を除く。苦土石灰をまく。二、三週間後に肥料や養土を入れる。それからは草とりだ。

令和四年の出来は、ミニトマト、茄子、小玉西瓜が予想外に豊作である。前年よく採れた胡瓜と隠元は不作に近かった。放つたらかし栽培(?)もある。蒔、茗荷、三つ葉だ。全く手入れをしないのだが、毎年季節がくるとあちこちにお福分けする程の収穫で嬉しい。

果樹も少しある。カリン、柘榴、ブラックベリー、ラズベリー、ブルーベリー、蜜柑だ。カリンと柘榴の実を食したことがない。カリンは花・実の香り、樹肌を楽しみ柘榴は花で満足なのだ。ラズベリーも実の色と形が好きだ。ブラックベリーは何故か年々元気がなくなってきた。心配をしている。ブルーベリーは我が庭の王者だ。なぜなら年々樹木が増え、収穫も

大量なのだ。手入れはする。下草刈り、肥料の施し、水やりと。併しそれよりも我が家の庭のもともとの土がブルーベリーに合っているのだと思う。但し、実がつくと小鳥対策と収穫の期間ヒマはかなり大変。防虫ネットを張るタイミング、涼しい時刻での収穫―電気

虫に注意しながら―なのだ。蜜柑は前年思いの外採れたことそして今年蜂(蜜蜂)を余り見なかったので覚悟はしていたが、矢張り五本の指で足りる収穫だった。

令和五年に期待することにする。さて、野菜の栽培地のローテーション(連作不可)を考え、土づくりの準備に取りかかるか。

おだやかな日々を

熊谷西 高橋 伸子

一九四四年、太平洋戦争中生まれの私には、戦争の記憶はない。

しかし、子供の頃父母から聞いた八月十四日、終戦前夜の熊谷空襲の話、「はだしのゲン」や「黒い雨」を読んで知った原爆投下のこと、そして、現地を訪れ、ひめゆりの塔で聞いた沖縄戦のことなど、戦争によって兵士、女学生、無辜の民の多数の命が奪われたことを知った。何と残酷で惨いこと

であろうと思う。

今年二月にロシアによるウクライナ侵攻が始まった。メディアを通して街が破壊され、多数の兵士住民が落命した無残な様子が伝えられている。

戦後七十七年、沖縄本土復帰五十年の今年、新聞等で沖縄戦のできごとや体験した人の声を取り上げられている。私には、ロシアとウクライナの戦争に沖縄戦とが重なって見え、恐れおののいている。

平和とは何か―戦争や争いごとがなくしておだやかなこと―と辞書にある。支那事変並びに大東亜戦争に参加した父は、随筆「前線と銃後」の中で、「戦弾にあい、銃撃にあい、往時を憶う時、余りにも戦争は悲惨である。人と人とお互いを消そうとする。何たる不祥事であろうか。人類一同、戦争の愚かさを悟り、永久に争いごとのなき様祈っている。」と言っている。まさにこの世のすべての人が平和を考えていくように訴えている。戦争を起してはいけない。そのためには私たち一人一人が平和な心をもつことだ。自己のことを考えるとともに他者のことを考える。自分が幸せであるためには他者が幸せでなければならぬ。

そこにおだやかな日々が訪れるのではないかと思う。

ロシアとウクライナの戦争が、早く終結することを祈っている。

プロ野球観戦記

熊谷南 馬場 攻

職を退き二〇年が経過しようとしている。目的を持って充実した日を過ごすことの難しさを実感している。「そんな状況で継続できているものにスポーツの観戦がある。ここでは、プロ野球の観戦を記すことにする。

私は、小学校三年生から千葉ロッテマリーンズ(当時の球団名毎日オリオンズ)のファンである。勝負の結果に緊張感を保ち一喜一憂している。今年はチームとしては五位で残念な結果であったが、個人として記念すべき出来事があった。それは、二〇二二年四月十日プロ野球の一つの伝説が生まれたことである。佐々木朗希、二十歳。史上最年少でオリックス・バファローズ相手に完全試合を成し遂げたのである。九回二死。バッターは前年度パリーグホームラン王の杉本選手。テレビ観戦であったが見事、空振り三振にしとめたのである。

完全試合を築き上げた直球とフオーク、記録づくめの一三者連続奪三振、一試合一九奪三振、打者二十七人、一〇五球の熱投、凄いの一言である。佐々木のプレーを見たという欲求に駆られ、直接見届けるため長男の運転で外環を走り2020マリンへ、動きは速かった。通うこと三回。バックネット裏席でしなやかな腕の振りからリリースされる投球を目の当たりにした。美しい姿であり目に焼き付いている。

完全試合の記憶は私にとって、まだ、新しい。

若き右腕が登板する度に、ついその残像を重ね合わせてしまうが、本人の時計を針は進んでいる。

来季以降に何をやってのけるのか。規格外の投手「令和の怪物」の可能性は計り知れないものがある。

時間いっしょにわれない旅

熊谷北 小林 淳一

私の趣味は、国内旅行です。多くは、車で遠くに旅行します。今までに北は函館、南は広島まで車で行きました。時間にとらわれず行き先を一つ決め、帰りは気の向くままに、寄り道をしながら旅行をしてきます。そこでのハプニン

グも思い出の一つとなり、楽しんでいきます。

さすがに一人で遠出するのは大変なので、助手席にはいつも妻をつきあわせて旅行します。とは言っても、車の運転はほぼすべて私がすることになります。妻には車中で、夕方になるとその日の宿をスマホで探し予約したり、観光する場所を決めたりする係をしてもらっています。

ここ二、三年はコロナ禍で自粛していた旅行ですが、社会活動の緩和の動きの中で、人との接触を最小限にできる車での旅行を再開しました。

そして、今年は島根県の出雲大社へ車で旅行することにしました。その中でハプニングを紹介いたします。出雲大社に行った帰りのこと、兵庫県の姫路市に二泊目の宿をスマホで予約がとれたということ、夜遅く予約した宿に到着すると予約の日が一日ずれていて、しかもすでに満室で宿泊できないということになり、夜十一時すぎに宿探し。運よく車で十五分ほどかかる別の宿に泊まることができました。今回の旅行は、出雲大社の他に、松江市、尾道市、神戸市など全行程四日間、一七〇〇kmの旅行でした。

旅行のたびに、いろいろなおことがありますが、これも二人が健康であればこそできることなので、これから先も楽しく旅行ができるように健康に気をつけながら生活をしていこうと思います。

「走NEWSNEWS」がある。

深谷北 矢島 久

「こんにちは！」通りすがりの高校生たちからの清々しい挨拶に元気をもらった。日課にしているジョギングの最中である。一人トコトコと走っているおじさん応援してあげようと高校生たちは思ったのかもしれない。これが、ジョギングの時に訪れる幸せを感じる瞬間である。

一方、週に一度のジョギングクラブでは、多くの愛好家たちと時にのんびりと、時に息を切らせ、精を出している。小学生から大人までのクラブであり、最高齢は八十代である。そんな仲間の姿に刺激され、やはり、幸せを感じながら走ることを楽しんでいる。

子どものころから走ることに関心を持ち、年を重ねるごとに体の変化や体力の衰えを感じてきてはいるが、走ることをやめようと思ったことはない。

走ったそのすぐ後でしか味わえない喜び、「走りたくないなあ」と思っているときでさえ、走ってみると味わうことができず、う喜びは、不思議だ。さらには、その喜びを味わうという目的を持って走り出すわけではないから、もっと不思議だ。

「どうして、そんなに走るの？」と尋ねられることがあるが、すぐに答えられないのが常だ。でも、走らないことには答えは見つからない。仕方ないから、「答えを見つけないために走っています」と答えることにして、季節の移り変わりと、時々交わす見知らずの人や仲間との交流を楽しみながら、今日も走り出すことにする。

外に出よう

深谷中 菊池 正彦

コロナ禍で行動制限になつていたが、経済社会活動を優先するため外出も緩和されてきた。

先日、小中学校時代の友人からメールが届いた。「ご無沙汰しています。つつがなくお過ごしのことと思います。さて、十月二日の日曜日午後二時から深谷市民文化会館で深谷市民寄席があります。もし都合が良ければどうですか。」

すぐに返信した。「いつでも大丈夫です。喜んで参加します。」友人とは、三年近く会えていなかった。実は、落語を鑑賞するのは、ここ十数年ないことに気がついた。

そして当日、少し早めに待ち合わせをした。積もる話もあり懐かしい会話も弾んだ。深谷市民寄席は、三遊亭小遊三と春風亭小朝の二人が登壇した。どれもわかりやすい演目であるほどと感心したり、腹の底から笑うことができた。時間があつという間に過ぎていった。そして、忘れていた感覚がだんだんよみがえってきた。これを機に少しずつ外出を増やしていきたいと思つた。

まず、楽しかった落語鑑賞を続け、幅広く奥深さを堪能したいと思う。また、四季折々の風景を楽しみながらサイクリングも始めよう。幸い電動自転車を購入したばかり。そして、コロナ禍でストップしていた御朱印集めも再び始めたいと思う。御朱印集めは、大宮の水川神社をスタートして秩父や群馬にも足を伸ばしていた。これからは、もう少し遠くまでと思つている。

外での活動の基本となるのが健康だ。毎日のテレビ体操やウォーキングを続け、日々移りゆく季節

を五感で感じながら心豊かに過ごしたい。

育newjournal

深谷南 茂木 隆資

深谷市立花園小学校での三年間を校長生活の最後とし、拠点校指導教員としての一年間を経て、今年度から教員を目指す大学生に教科指導法や英語の言葉自体と伝える事の大切さを教えている。「人の世の全てを作るのが教育だよ。」常々学生にそう語っている。

初任者や大学生の若さと可能性はまぶしい。行先がますます不透明なこれからの世界を生きるために懸命に頑張っている若い世代は本心に心から応援したくなる。

私は、教員採用試験の論文に書いた事をずっと心に抱きながら教員人生を続けている。「自分を育ててくれた社会に教育を通して恩返しをする。」というものだ。私のようないい加減で浅学菲才の人間が物事を続けるには大義名分を掲げることが必要なのだ。自分自身、子どもたちや職員の成長の助けを通して、恩返しに十分できたかどうか全く自信がない。道半ばだ。

多くの先輩方に倣い、野菜作り

を始めた。親友から耕運機を借り、猫の額のような土地を耕し、野菜の種を蒔き、孫の大好きな苺の苗を植えた。思えば、校長をしている時も児童や地域の人の喜んでもらうための虫や東日本大震災の被災地に送る葱を育てたものだ。自分は育てることが好きなのだ。つくづくそう思う。

野菜や昆虫と違い、この世の中で一番複雑でかけがえのない一人の人間の成長の手伝いは至難の業だ。教育の道は遠く、そして尊い。目の前の子どもたちに真摯に向かい合う先生方、重い職責を果たしている現職の校長先生方に心よりエールを送りたい。

退職後に変わったこと？

寄居 櫻井 仁志

退職後七ヶ月が過ぎた。この間、現役時代と変わったことといえば、まず第一に、自宅を出る時間が一時間以上も遅くなったことだ。起床時間は身に付いた習慣からか全く変わらないのだが、この朝の一時間が大きい。休みの時しかやれなかつた掃除や庭木の手入れをする時間がとれている。今まで、植木の手入れは、植木職人に任せきりになっていた。時間があるとい

うことは、不思議なもので今まで気にもしなかつた縦横無尽に伸びた枝や葉のバランスの悪さに目がとまる。気になると、すぐに長靴を履き、剪定の道具を持ち、植木を整える。こんなことから一日が始まる。その後、愛犬の面倒をみてから勤務先に向かう。勤務先は、中学校教諭として長くお世話になった町の教育委員会生涯学習課の社会教育指導員の任をいた、いた。出勤簿に印を押し、PCの電源を入れ、メールと課の職員のスケジュールを確認する。私に任されている仕事は、生涯学習、社会教育に関わる子供会、スポーツ、武道関係などである。大会や研修会を企画・運営していく中で、今まで関係の少なかった、あるいは無かつた地域の人々と同じ学びの目的のために協力していく。必要に応じ、業者や企業とも交渉する。一つの行事が終了すると、結果をまとめたり、様々な関係者から意見を聴取し、振り返りを行う。また、こうした行事の下準備や施設の管理で畑を耕したり、草刈りをしたりもする。そんなこんなで一日が終わる。就寝前に一日を振り返ってみるのだが、結局、教員生活と大きく変わったのは朝のひとときだったと認識する。

同好会だより



写真同好会

岡部 弘行

例会を年数回程度開催し会場は「さくらめいと」会議室にほぼ定着してきました。広い会議室なので会員でなくても飛び入りOKです。

持ち寄る作品は枚数やサイズ等の制限はありませんがA4判かA5判がほとんどです。

撮影対象は様々ですが会を重ねるうちにそれぞれの得意分野や好み鮮明になってきました。因みに前回の例会では各地のイベントを追いかけた写真、趣味の登山写真、旅行先でのショット、地元風景の紹介写真、瞬間の技を捕えた写真、植物写真、合成写真等と多彩です。作品の構図等の芸術性が話題になることは会の性格からありません。抽象写真は未だですが新しい風を吹き込んでくれる入会者を待っています。

囲碁同好会

深田 忠雄

○五月二十八日 春季大会

優勝 林 健次(熊谷中央)

準優勝 来間平八(熊谷西)

○十月十二日 秋季大会

優勝 林 健次(熊谷中央)

準優勝 山室鐵夫(熊谷西)

来間平八(熊谷西)

飛田典保(熊谷西)

コロナ禍で、約三年前から、毎月二回の練習碁会が休みです。年二回の大会を続けています。

プロ棋士は、一力遼棋聖、芝野虎丸名人、井山裕太本因坊さん達が活躍中、関西棋院では、世界最年少プロ(九才)がデビュー、中学生棋士の中邑董三段は百勝とか。アマとしては、それ程がんばらず、「忙中閑あり」と、年令を問わず、「ボケ防止」に役立つ囲碁を楽しみたいものです。皆さんの参加をお願いします。

絵画同好会

原口 一明

絵画同好会の主な活動は、六月と十一月の風景写生画、九月の静物画、二月の人物画制作です。

また、十一月には、水墨画同好会の皆様と合同の作品展を開催しています。

さて、

絵画制

作の醍

醐味は、

何と言

つても、

作品に

集中で

きるこ

とです。そして、同好会の方々と

作品についてお互いにコメントを

交しながら、様々な話題の語らい

は最大の楽しみです。

経験者だけでなく、描くことに興

味があつて活動している方々もお

ります。油絵、水彩画に興味のある

方は、どうぞ気軽に活動を覗いてみ

てください。お待ちしております。



「晩秋」

水墨画同好会

小林 芳雄

学習日第二・三月曜日、深谷市公民館平成十八年会員六名で発足。

故塚越茂先生の指導をいただき作品制作に取り組んで来ましたが、新型コロナウイルス蔓延のためと会員の高齢化により学習会は中止し、各自作品制作に取り組みことになりました。絵画同好会の好意により作品展示会に参加させていただいており、今年は十一月

二十五〜二十七日熊谷市立文化センターで開催しました。

退職後なんの趣味もない私でした。「絵でもやろうか」「筆と墨で遊ぼうか」そんな軽い気持ちで退職後始めました。

「筆と墨で遊ぼう」軽い気持ちで始めませんか。

役員・理事研修会

県営熊谷ラグビー場を見学して

令和四年九月十日(土)、大里支部『役員・理事研修会』を、熊谷ラグビー場で、開催しました。

コロナ禍にあつて過去二年間の「研修会」は中止になっていました。本年度も中止を考えましたが、世の中も徐々に日常の再開に進んでいる点を考慮し、感染対策を十分に考慮したうえでの実施を検討しました。そんな中、新装なった「熊谷ラグビー場」の内部を見学できないかとの話ができました。コロナ禍にあつて遠くへは行きづらいますが、地元にあるラグビー場なら集まりやすいし、建物内部まで見たことのある人は少ないとのこと、決定となりました。

当日は、午前九時三十分から約

一時間、ラグビー場建物一階の「記者会見室」をお借りし、役員・理事会を実施。各種報告、大里地方教育推進協議会、その他の内容にて検討・協議しました。

その後、十時三十分から、ラグビー場メインスタンド四階建ての内部を一階から四階まで見学。参加者は四十名ほどで、見るものすべてが新鮮で美しく、VIPルームや記者室、特別室、選手のロッカールーム等、それぞれの部屋に入るたびに参加者から「オーッ！」と感嘆の声が上がりました。特に五月に行われた囲碁の本因坊戦の対局会場となった四階の「特別室」は、ラグビー場全体を見下ろせる眺めのいい場所、まるで「貴賓室」と言ってもいいような優雅で風情のある部屋でした。その後、スタンドのVIP席や記者席、そしてグラウンドレベルにも案内して頂き、電光掲示板はバ



レーボールコート一面の大きさと聞き、そのスケールの大きさに驚きました。

このようにして、地元にあってもなかなか見ることのできなかつた熊谷ラグビー場の内部を見学することができ、参加者の多くが当初の予想を超える満足感を味わうことができました。今改めて思うのは、コロナ禍にあっても、人やモノと直接触れ合うことが、いかに大切か、そんなことを感じる良い機会となりました。

(文責 加藤 彰)

第五十一回 関東甲信越地区
退職校長会連絡協議会 埼玉大会

深谷市で開催

標記の関プロ大会が十月二十七日二十八日に埼玉グランドホテル深谷で開催された。一都九県から五十五名の参加者があった。

一日目の研究協議会は「退職校長会に求められることは何か」「定年延長に伴う退職校長会への入会について」「デジタル化に向けて」などの協議題に基づき各都県の発表、意見交換が行われた。

二日目はバス二台に分乗し、「渋沢栄一記念館」「中の家」の見

学研修が行われた。記念館では篠田鼎一郎先生に丁寧な解説をしていただいた。車中は地元ということとで新井俊一県副会長と内田が案内係を務めた。車窓からではあつたが、尾高惇忠生家、誠之堂、清風亭も見学した。参加者からは

「栄一翁の生い立ち、業績等に触れ、一万円札の肖像となるのが納得できた。」などの声が聞かれた。秋晴れの下、大里深谷を知っていた、たく良い機会となった。

深谷市教育長小柳光春様にはご挨拶の中で「ふるさとふかや・渋沢学の推進」のお話をいただいた。また、本会開催に当たり、多くのご高配をいただきましたことに御礼申し上げます。

(文責 内田眞弘)



「風布の古民家」

第二十回 秋季親睦ゴルフ大会

令和四年十一月十七日(木)、上里ゴルフ場に十九名の参加者が集まり秋季大会を開催しました。

六十歳代から八十歳代まで年齢の差はありますが、快晴無風の絶好のコンディションの下、ナイスショットに歓声が沸き、珍プレーに笑いが起こって、楽しい一日を過ごすことができました。

- 大会の結果は、次のとおりです。
- ・優 勝 室岡 寛昭(寄 居)
 - ・準優勝 林 健次(熊谷中央)
 - ・第三位 関根 隆夫(熊谷東)
 - ・ベスグロ 林 健次(熊谷中央)

(文責 小林晃一)

訃 報

令和四年

氏名	年齢	逝去月日	地区名
渋沢 敦雄	81	1・19	深谷中
野口 嵩	87	2・21	深谷北
笠原 栄一	93	4・18	深谷北
関根昇一郎	88	8・15	熊谷東
内田 忠明	84	11・3	熊谷東
持田 勉	92	11・24	深谷北

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

陶芸

「掛け流し鉄赤壺」

深谷北 篠崎 正明



「三浦岬漁港」

深谷北 風間 勲



絵画

みんなの広場

水墨画

「黒い実が甘い」

熊谷北 小林 芳雄

令和四年八月 日美展出品作品 臨画の部 佳作



「春爛漫―刀水橋」毎日通った道

熊谷北 村田 貢



写真

SNS

深谷北 吉井 恵美子

咲ききつて豊の上の白牡丹

SNS指先対話夜半の秋

秋の峰鈴の音高く山ガール

文化の日一句そへられ礼状来

紅の口キュッと結びて七五三

俳句



絵画説明

挿入の絵画「晩秋」「風布の古民家」は、絵画同好会の風間勲先生（深谷北）に提供していただきました。

編集後記

皆様により親しんでいただけるようリニューアルした第54号をお届けします。ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。これまでの文芸作品に加えて、「絵画」「写真」「書」「水墨画」「彫塑」「陶芸」などこれからも広く募集します。応募される方は、各地区の広報部員にお声がけください。たくさんのご応募をお待ちしております。

令和4年度 広報部員

- | | |
|-------|--------|
| 島村 裕 | （熊谷北） |
| 福松 郁己 | （深谷中） |
| 松沼 辰一 | （熊谷東） |
| 小瀧 明史 | （熊谷中央） |
| 原飯 裕一 | （熊谷西） |
| 栗田 明 | （熊谷南） |
| 飯野 明 | （深谷北） |
| 栗田 敦 | （深谷中） |
| 飯野 年 | （寄居） |

埼玉県退職校長会大里支部会報

（第五十四号）

発行 令和五年二月一日

発行者 支部長 内田 真弘

印刷所 株式会社 博文社

熊谷市本石一―一三〇四

〇四八（五二）三〇六三